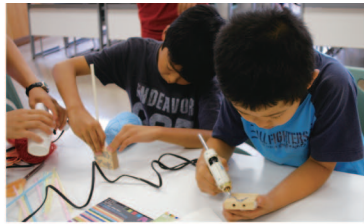


ものづくり de 教育

Vol.9 August.2009

Topics

大学説明会報告
小学校で見えるものづくり教育
Keyword「学校」
「食器」で暮らしを見直す



「ものづくり教育選修」説明会実施報告 @オープンキャンパス

高校生に東京学芸大学のものづくり教育をオープン

2009年7月18日に、東京学芸大学ではオープンキャンパスが開催されました。ものづくり教育選修も、来年度から開設される新選修として、受験生にカリキュラムなどの説明を行いました。また、学問(学び、問う)内容を身近に感じてもらうと企画したワークショップにも、何人もの高校生が興味を持って参加・見学してくれました。(新名)

東京学芸大学のオープンキャンパスは、大学全体の様々な話を聞くことのできる全体会と進学を希望する専攻・選修の細かな話が聞ける分科会の2部構成になっています。推進メンバーの教員らが、これまで計画してきたものづくり教育の理念や4年間のカリキュラム、学生生活、大学卒業後の理想像などを、伝えました。第1期生となって一緒に学芸大でものづくり教育を創り上げようという熱意に、多くの受験生が興味深く耳を傾けていました。

一方、並行して別教室でワークショップを行いました。大学2年(美術科)の大森さん小松さんが企画立案し、イベントとしてWSを進行させている様子を、受験生が見学するという形を取りました。WSの対象は小学生6人、摩擦の力を使って、ヒモとストローだけで箱をのぼらせる仕組みを考え、実際にどうすれば具合がいいのかを工夫するなど、作るだけではない「学び」を仕掛けたワークショップでした。最後には、作ったものを1階から説明会の行われていた3階の教室にのぼらせて、受験生を応援するメッセージを届け、更に返事を3階からパラシュートで返すという相互関係を体感するものでした。長い距離を乗り越える緊張感と達成感、送る側、受け取る側のみならず、傍から見ている人にも伝染して、周りにいた多くの人と喜びを分かち合える貴重な瞬間が生まれました。ものづくり教育の興味深さの一端を見せることができました。



WSの対象は小学生6人、摩擦の力を使って、ヒモとストローだけで箱をのぼらせる仕組みを考え、実際にどうすれば具合がいいのかを工夫するなど、作るだけではない「学び」を仕掛けたワークショップでした。最後には、作ったものを1階から説明会の行われていた3階の教室にのぼらせて、受験生を応援するメッセージを届け、更に返事を3階からパラシュートで返すという相互関係を体感するものでした。長い距離を乗り越える緊張感と達成感、送る側、受け取る側のみならず、傍から見ている人にも伝染して、周りにいた多くの人と喜びを分かち合える貴重な瞬間が生まれました。ものづくり教育の興味深さの一端を見せることができました。

推進メンバー課外リポート： 小学校で見えるものづくり教育 新名佐和子〔ものづくり教育 GP 専任研究員〕



今回はこの月報を毎月編集している、本プロジェクト研究員・新名佐和子が現在行っている授業をご紹介します。大学教員とも学生とも異なる立場の研究員ですが、学芸大の「ものづくり教育とは何か?」を追究する教員らの一番身近なところで一緒に考えております。筆者の視点で、小学校の現場に見える、ものづくり教育の種を取り上げます。



筆者は、当 GP プロジェクトの研究員として活動すると同時に、4月から東京学芸大学附属小金井小学校の図画工作非常勤講師として、3年生の図工の授業を受け持っています。これにより、大学のカリキュラムとして考える「大学生が先生になっていくためのものづくり教育」と「小学生に対して実践されるものづくり教育」という二つの取り組みを並行して行っています。我々のいう「ものづくり教育で育まれるチカラ」がどのような場面で求められるのか、図工における児童との関わりを解体、観察しています。



筆者は、以前中学校で美術科講師を経験していますが、その時以上に、声かけを「意識的に」おこなっています。特に、考える場面と言葉にする場面での子どもたちのモチベーションの上げ方を考慮した声かけに気をつけています。例えば「肌色ってどうやってつくるの?」と聞かれたときに「肌色ってどんな色かな?」とほんの一言の疑問を提示できるかどうかで、子どもたちが新しい知識や経験に出会えるかどうか分かります。色白の子も日焼けしている子も、人種の異なる人も、みんな皮膚の色は肌色だと考えさせるためには予め、心づもりが必要です。だから「意識的に」は、子どもたちの声を拾い、不意の機会を逃さないように心がけておくという意味で大切だと再認識しています。「意識的に」行動することは、客観的に自分の行動を観察することにも繋がります。



▲ この授業では、新聞紙の性質を探った後、性質を利用して帽子を作り、最後に自分の帽子を PR する CM を制作。上：紙の目を感じながら破いていく。中：CM撮影前に看板を用意。下：ニュースキャスター風に紹介したい!とテーマを決めて、それに合わせてマイクと原稿を用意した。

今後も「ものづくり教育で育まれるチカラ」を活かす実験的な小学校教員のサンプルとして、モノにもヒトにも、日常生活にもつながる、気づきの多い図画工作を子どもたちと一緒に考え、新たな授業づくりに取り組んでいきます。



▲ 真っ白の画面に線の強弱、形、色で「音の見える地図」を作った。その後目印や暗号、罫などを加えて、自分人形でいるんな世界の地図を冒険。

